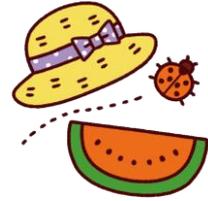




7月 調布幼稚園だより

令和6年6月28日



『子どもの成長の証を大切に』

園長 山形美津子

調布幼稚園でのプール遊びが始まり、子どもたちの歓声が園庭やグラウンドに響いています。夏の活動には欠かせないプール遊びですが、幼稚園では泳げるようになることが目的ではなく、水に親しみ触れ合うことが目的です。プール活動の参観日もありますので、お父さんたちが水に親しみ、友達と一緒にプールでの活動を楽しんでいるところを是非ご覧下さい。

先日、田園調布学園大学の心理学科教授 学科長でいらっしゃる黒田美保先生にお越しいただき、保護者の方への講演会を開催しました。テーマは『楽しい子育て講座～反抗期にどう対応？～』です。

先生の話によると、反抗期というのは満1歳になり、歩けるようになったり話せるようになったりする頃から始まるそうです。それは自分でやることを決め、自分でやろうとするから起こるのだそうです。自分でやろうとしたことを大人が手伝おうとすると、自分でやりたかったことを邪魔された子どもが怒る、これが反抗期の始まりだそうです。確かに靴を履こうとしたり、洋服を自分で着ようとしたときに手伝おうとすると子どもは怒ります。言葉にはできなくても「僕がやろうとしたのにー」と言ってよく怒る場面に出くわします。この頃の子どもは、何でも自分でやりたいのです。

また、年齢が上がり幼児期になると、幼稚園という子どもの社会で親から離れた自分の生活を始めます。この時期は、自己主張することも必要であり、自己抑制も必要です。自分のやりたいことを自分で決めながら社会のルールも学んでいます。友達への心配りも必要で、精いっぱいがんばった子どもたちは、家に帰るとホッとして自己主張が強くなることがあります。わがままが出てそれが親にとっては反抗期と映ることもあるのです。子どもは幼稚園という社会の中で一生懸命に生きています。時々、親側も譲れるときは譲るようにすることが大切だと黒田先生はおっしゃっていました。

子どもたちは、入園進級から3か月が過ぎ、どの学年の子どもたちも4月当初に比べるとものすごく成長しています。年少組の子どもたちは、初めて家族と離れて同年齢の集団の中で過ごしてきました。年中組、年長組の子どもたちも新しいクラスや新しい先生との出会いがあり、環境の変化もありましたが、その中でも一人一人が自分らしさを発揮していろいろな活動に取り組んできました。子どもたちはこの1学期間だけでも貴重な経験をたくさんして心も体も逞しく強くなったと感じています。

子どもの反抗期はありますが、誰もが通る道です。まもなく夏休みになります。長い時間、子どもとかがかかっていると、大人にとっては大変なこともあると思いますが、子どもの反抗期は成長の証です。少し立ち止まって子どもの側に立ち、子どもの目線で見たり子どもの気持ちになって考えてみたりすることもイライラしない一つの方法かなと思います。成長した子どもたちのいいところ探しをして、約40日間の生活を楽しもうという気持ちでお過ごしいただけると嬉しいです。

この1学期の間、保護者の皆様、地域の皆様にはたくさんのご支援とご協力を頂きました。深く感謝申し上げます。

<学校法人調布学園の相互連携>

調布幼稚園は、学校法人調布学園の中の幼稚園です。同じ法人には田園調布学園大学・大学院、田園調布学園中等部・高等部、田園調布学園大学みらいこども園があります。

この法人内の各学校・園はいろいろな形で相互に連携し、学び合っています。教職員同士が他校や他部門の授業や行事を見学したり、施設を見学したりするなど、様々な連携をしています。

先日の保護者の方への講演会も、幼稚園と大学の連携で進めました。子どもたちも中等部・高等部の生徒との交流や教育実習生との交流をしています。中等部・高等部にはプログラミングで子どもたちにアクティビティをしてくださっている村山先生もいらっしゃいます。本園の教員も他校の授業を参観し、校種の違いから多くのことを学んでいます。

これからもこのような法人内の学び合いや連携を大切にしたいと思っています。

7月の目標

全学年

- 梅雨から夏への季節の変化を感じ、様々な栽培物の生長に興味をもったり、収穫したりすることを楽しむ。
- 熱中症予防に関心を持ち、日陰で遊んだり、水分を十分に摂ろうとしたりする。
- 七夕を通して飾りを丁寧に製作し、みんなで笹に飾る楽しさを味わう。

年少組

- 自分の好きな遊びを見付けたり、周りにいる友達に親しみをもち、かかわりを楽しむ。
- 水のペンキ屋さんや洗濯ごっこなど、水の気持ちよさを感じ、水遊びや夏ならではのいろいろな水遊びを楽しむ。
- 暑い日の過ごし方を知り、汗をかいたら自分でハンカチで拭いたり、水を飲んだりする。

年中組

- やりたい遊びをする中で、思いついたイメージを教師と一緒に実現したり、自分で作った物や場で友達とかかわって遊んだりする。
- 身近な廃材や材料を使って舟づくりを楽しみ、浮かべる中で素材の性質に気付き、試行錯誤する楽しさを味わう。
- 色水の混色や色の変化、シャボン玉が風に吹かれる様子、泡を立てる遊びの面白さなど、夏の遊びを楽しんだり、砂場で水を使って教師と一緒にダイナミックに遊んだりして解放感を味わう。

年長組

- 友達と遊びを進めていく中でイメージを共有し、友達とのつながりを感じながら遊びに必要なものを作り、作ったものを使って、十分に遊び込む。
- 色水遊びでは自分で素材から色を作り、混色や色のグラデーションを楽しみ、シャボン玉遊びでは風の入れ方など試したり、工夫したり、教師や友達のやり方も取り入れ、夏の遊びを存分に楽しむ。
- ゴムの動力で動く舟など、身近にある素材や材料の性質や使い方が分かり、試行錯誤しながら遊びを楽しむ。

調布幼稚園の自然と子どもたち

7月 登って、食して、種で遊びを創り出す子どもたち

顧問 外崎明美

調布幼稚園の園庭にはビワの木があります。春先、年長児はビワの木登りにさっそく挑戦していました。おい茂った木の葉や枝を潜り抜け、手を掛け、足を掛け登って行きます。あんまり端っこに行くと、木の枝がしなってくるので「それより先に行くと枝が折れるから危ないからね」と教師も知らせ、危機意識を育てます。

季節が移り、梅雨が近付くと青かったビワが山吹色に変わり、食べ時になりました。全学年ビワをたくさん食べることができるようになり、種に気を付けて食べました。「僕のは、すっぱい」「これは色が濃いから甘いかも」など、年長さんならではの会話も弾みます。食べた後の種をきれいに洗って、種転がしが始まりました。

ラップの芯やペットボトルを半分に切ったものや、トンネル状にしたものを繋げて、コースを作っては種を転がしてゴールまでいくか試しています。うまくいかないと、何度も友達と考えを出し合いながら試行錯誤して種転がしを楽しみました。

年少さんはペットボトルに種を入れて、マラカス作り！入れる量によって重さも音も違うことに気がきました。年中さんはお菓子の詰め合わせの大きな箱に、小箱を切ったものをトンネルにし、コースを仕切ってコリントゲームを作り、種を転がしてゴールまでいくか試して楽しんでいました。

